



たんぼぼ文庫は、昭和50年、市民の運営による地域文庫・鉄子文庫白鳥台分室として発足したのが始まり。平成7年に「たんぼぼ文庫」として独立。子供たちへの本の貸し出しや読書の普及活動を行っている。平成12年には、前代表の安藤薫さん宅(白鳥台2-40)に専用の施設を建設し、木曜日の14時から17時まで開放。蔵書は児童図書を中心に約4千冊を数える。文庫での本の貸し出しのほか、幼稚園、小・中学校、児童館などでの読み聞かせ、ブックトーク(本の紹介)、ストーリーテリング(物語を覚えて話すこと)、また、時には人形やパネルを使うなど、趣向を凝らした様々な方法で子供の好奇心を誘っている。

元々本を読むことが大好きな伊藤さん。読書は毎日の日課だが、子育てを体験して、本とのかかわりが一層強くなったという。

「自分の子供には赤ちゃんのと

読書の楽しさを伝えたい

キラリ
室蘭人

たんぼぼ文庫代表 **伊藤光子** さん

読書の推進活動を行う「たんぼぼ文庫」の代表。4月から新たに、母親の視点から本に関する身近な話題を提供する講座を開催する予定。このほか、図書館の充実を促す「図書館サービスに期待する会」の世話人なども務める。

たんぼぼ文庫への問い合わせは、伊藤さん(☎474567)へ。

白鳥台の「たんぼぼ文庫」



きから読み聞かせをしていました。読んであげていたと言うよりは、自分が読みたかったからかもしれない。活字に飢えていたんです。子育て中は、読書しているひまなどありませんでしたから。

「私にとって、読み聞かせは、子供とのコミュニケーションの一つでした。内容を理解しているかとはもかく、本を通して一緒に過ごした時間は、親子関係を築くために大切なことだったと思います。」

活字離れが言われて久しいが、伊藤さんは、幼いうちから本に関心を持ってもらう必要性を感じている。4月からは、お母さんたちを対象に、本人いわく『身の丈講座』と銘打った、会員による自らの経験談や本にまつわるエピソードなどを楽しく語る場を設ける。

「何度も、何年も、何人でも、繰り返し楽しむことができるのが本です。しかも図書館や地域文庫は無料。利用しないのは損ですよ」と、伊藤さんは、本のある生活を提案している。

資源ごみを出す場所は決められているの？

先日、資源ごみ回収用のコンテナ容器が出ていたので、普段出している場所ではなかったのですが、きちんと分別して空き缶などを入れました。すると、「そこへ出しはいけない」と、近所の人からひどく怒られてしまいました。なぜ怒られたのか、理由がまったく分かりません。各家庭によって、排出場所は決められているのでしょうか。

(市民・女性)

お答えします

各家庭の排出場所は、厳密には決まっておらず、あなたの行為が間違っているわけではありません。しかし、地域外からの排出が多くなると、容器やネットの数の予測が困難になること、また、地域外から持ち込む人の排出マナーが悪いという傾向があるのも事実です。注意をした人も悪意からではなく、資源ステーションをきちんと管理したいという思いから、そう言ったのではないのでしょうか。

市では、これらの状況を踏まえ、ルールを理解やマナーの徹底など、より一層の啓発に努めていきたい

と思いますが、トラブル防止のため、できるだけ自分が住む地域での排出をお願いします。

(リサイクル清掃課)

リサイクル推進員制度の見直しを

この制度がスタートして丸5年。資源ごみの分別意識は大きく変わり、当初の目的は十分に果たされているのではないのでしょうか。

町会・自治会に対する奨励金の交付を廃止し、また、形式的なものととなっているリサイクル推進員の活動報告書の提出も廃止すべきだと思えます。

(市民)

お答えします

この制度は、資源ステーションでの分別排出状況調査、指導、啓発を市民自らが行う、市民参加型の啓発事業として導入しました。制度の導入後は、推進員の皆さんの活動成果もあり、資源物の分別状況は改善傾向にあります。

市では、当初の目的は十分に果たされたかと判断し、平成16年度以降はこの制度を廃止させていただきますことになりましたので、ご了承ください。

(リサイクル清掃課)

ととと
声

皆さんの声をお寄せください。
〒051-8511 室蘭市幸町1-2
室蘭市市民対話課
☎252193、ファクス252835
Eメール shiminintaiwa@city.muroran.
hokkaido.jp